

「これが私たちの国です」。六月二十七日、札幌市中央区の北海道庁赤れんが庁舎。カナダ・ケベック州のフアースト・ネーションズ（先住民インディアン）、クリー族の男性がカナダ北部の地図を示した。男性はクリー族のリーダーの一人、バーティール・ワパチー氏。声高に訴えるのではなく、柔和な笑顔で自分たちの今を淡々と語った。

カナダの先住民は約一六七万人で、全体の約五％。クリー族はカナダの先住民では最大で約二〇万人に上る。一八〇〇年代後半から、カナダ政府による同化政策に苦しんだ。強制移住させられ、子どもたちは親から引き離され、寄宿舎で西洋式の教育を強要された。学校では自分たちの言語が禁止された。寄宿舎は政府が補助し、一九九〇年代まで続いた。

二〇〇八年、カナダのハーバー首相（当時）が同化政策を謝罪。昨年九月には、トルドー首相が国連での演説で、大半を先住民族への謝罪と反省、償いへの決意にさいした。札幌での講演会に出席した在日カナダ大使館のナディア・ブルジェー首席公使は「過去を変えることはできないが、過去に学び、よりよい環境をつくることはできる」と話した。

カナダでは、憲法で先住民が規定され、

先住民の150年

先住民として登録されると、一定の権利や特典、社会保障などが受けることができる。古地順一郎・北海道教育大函館校准教授によると、先住民の人口は一〇年前より約四割増えた。出生率が高いことに加え、アイデンティティーが高まり、先住民と名乗り出るケースも少なくないという。

ワパチー氏は、ケベック州北部に居住する。ここにはクリー族約二万人が暮らし、クリー族評議会が環境保護や狩猟、漁獲、経済、開発などの自治権を有する。ワパチー氏は「権利を獲得するため、四〇年間、連邦政府や州政府と交渉してきた。今は自分たちが将来をコントロールできる。だから今、私たちはここにいます」と話した。

クリー族は経済的な自立を目指す。今回来日した目的の一つは日本とのビジネスだ。ワパチー氏は「私たちの国には最高級のマツタケがある」と強調し、日本との取引に期待した。

◇ ◇

日本の先住民の今はどうか。唯一のアイヌの国会議員だった故・萱野茂さんが国会で初めて質問したのは二四年前。アイヌ語を交えて、同化政策を進めた旧土人保護法の撤廃などを求めた。同法が廃止され、一九九七年にアイヌ文化振興法が制定され

たが、文化面での施策が中心で、所得や大学進学率など経済的な格差の是正は進まなかった。国会がアイヌを先住民と認める決議をしたのは二〇〇八年。その後、政府は新たなアイヌ施策の検討を始め、アイヌに関する国立の「民族共生象徴空間」の建設のほか、新法の制定も検討されている。

今年「北海道」の命名一五〇年目の基となった「北加伊道」を提案したのは幕末から明治にかけて北海道で活躍した探検家、松浦武四郎だ。「カイ（加伊）」はアイヌ語で「アイヌが住む地域」という意味を持つ。武四郎は、自身の著作で、松前藩によるアイヌへの強制労働や虐待を批判。明治維新後も、北海道開拓の現地責任者となり、政府にアイヌの差別解消を進言したが、聞き入れられずに、辞職した。

武四郎の指摘から一五〇年がたっても、格差はなくならず、アイヌの先住民としての地位も憲法や法律で定められていない。安倍政権になり、憲法改正論議が盛んだが、先住民への言及はほとんどない。一五〇年を単なる「お祝い」にしてはいけない。過去の歴史と真摯に向き合っており、次に向かうことができる。カナダのように、私たちの国の首相の「言葉」が聞きたい。

ハ洋▽